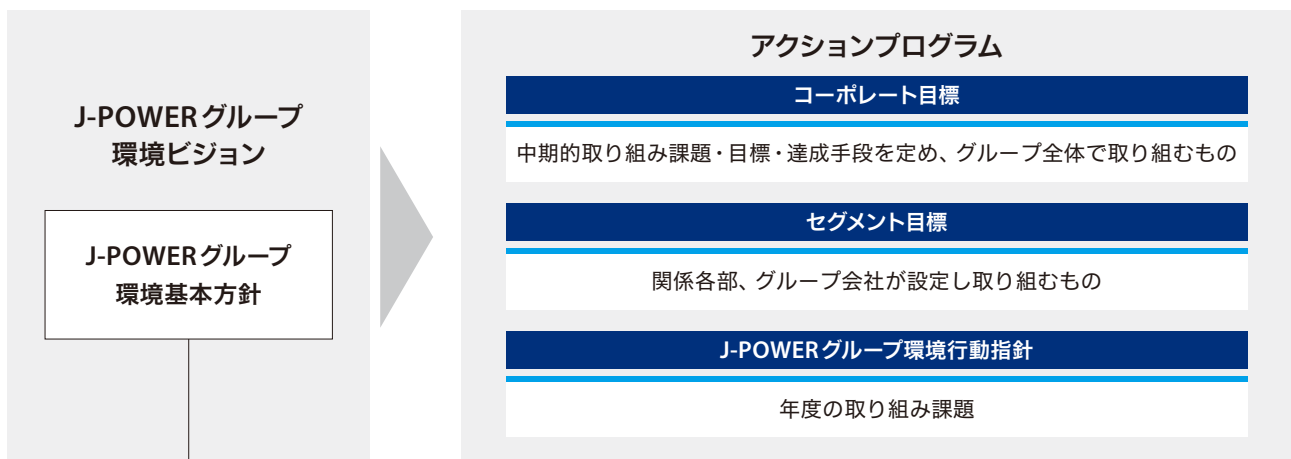


J-POWERグループと環境

J-POWERグループでは、グループ一体となった環境保全活動の取り組みを行うため、「J-POWERグループ環境ビジョン」を定めています。エネルギー供給に携わる企業として、環境との調和を図りながら、日本と世界の持続可能な発展に貢献します。

■ J-POWERグループ環境ビジョン

J-POWERグループ環境ビジョンは「J-POWERグループ環境基本方針」と「アクションプログラム」から成り、「アクションプログラム」はさらに「コーポレート目標」と「セグメント目標」および毎年策定する「J-POWERグループ環境行動指針」から構成されています。



J-POWERグループ環境基本方針		(2021年8月改定)
J-POWERグループは、		
気候変動問題への取り組み	不断のエネルギー提供と持続可能な社会の実現に向けて、これまで培ってきた経験と技術をもとにカーボンニュートラルの実現に取り組めます。	
地域環境問題への取り組み	事業活動に伴う環境への影響を小さくするよう対策を講じるとともに、省資源と資源の再生・再利用に努め廃棄物の発生を抑制し、地域環境との共生を目指します。	
透明性・信頼性への取り組み	あらゆる事業活動において法令等の遵守を徹底し、幅広い環境情報の公開に努めるとともにステークホルダーとのコミュニケーションの充実を図ります。	

■ J-POWERグループ環境ビジョン コーポレート目標・実績

2020年度はコーポレート目標のすべての項目で目標を達成しました。

	項目	目標	
地球環境問題への取り組み	電源の低炭素化と技術開発の推進	低炭素社会の実現に向けた以下の取り組みを着実に実施し、電気事業低炭素社会協議会の『低炭素社会実行計画』の目標達成を通じて、日本と世界のエネルギー安定供給とCO ₂ 排出の低減に貢献する。	
		(1) 再生可能エネルギーの拡大	
		<ul style="list-style-type: none"> 水力発電所の新設・増改良並びに設備更新を推進し、水力エネルギーの利用拡大に取り組む。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 洋上風力発電を含めた風力発電設備の大幅な拡大を図る。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 国内地熱発電の新規地点開発に取り組む。 	
		(2) 石炭利用の低炭素化・ゼロエミッション化への挑戦	
		<ul style="list-style-type: none"> 高効率な石炭ガス化複合発電技術 (IGCC) の実用化に向けた開発を推進するとともに、CO₂回収・利用・貯留 (CCUS) 技術の研究開発を推進する。 経年化石炭火力発電所を世界最高水準の高効率石炭火力発電所にリプレースする取り組みを行う。 バイオマス燃料の石炭火力発電所での混焼利用 (未利用資源の有効活用) を促進する。 当社の有する先進的な高効率発電技術を活用した石炭火力発電事業をアジア地域を中心に展開することで、地球規模でのCO₂排出の抑制と技術移転に貢献する。 	
		(3) 安全を大前提とした大間原子力計画の推進	
		<ul style="list-style-type: none"> 安全を最優先に、地域から信頼される大間原子力発電所の建設を進める。 	
			項目
	全火力熱効率 (HHV、発電端)	現状程度に維持する [40%程度]	40.8% <参考> LHV: 41.9%
	SF ₆ の排出抑制 (機器点検時、撤去時の回収率向上)	点検時: 97%以上 撤去時: 99%以上	点検時: 99.9% 撤去時: 99.3%
地域環境問題への取り組み	発電電力量あたりのSO _x 排出量の抑制 (火力発電所の発電端電力量あたり)	現状程度に維持する [0.2g/kWh程度]	0.22g/kWh
	発電電力量あたりのNO _x 排出量の抑制 (火力発電所の発電端電力量あたり)	現状程度に維持する [0.5g/kWh程度]	0.50g/kWh
	産業廃棄物の有効利用率向上	現状程度に維持する [97%程度]	99.3%
	水環境の保全	事業活動における河川および海域環境の保全への配慮	河川および海域環境の保全への配慮の実践
	生物多様性の保全	事業活動における生物多様性の保全への配慮	生物多様性への配慮の実践
透明性・信頼性への取り組み	環境マネジメントレベルの向上	EMSの継続的改善	確実なPDCAの実践

2020年度の主な実績		目標達成状況
水力エネルギー利用拡大について、2021年2月に足寄発電所2号機の主要設備の一括更新により出力増加し、営業運転を開始しました。ただし、出力増加分は将来的に系統の空き容量を利用できるタイミングで送電を可能とする計画です。また、新桂沢水力発電計画の建設工事を推進しました。		
陸上風力については、2020年12月にくずまき第二風力発電所が営業運転を開始しました。また、上ノ国第二地点の建設工事、苫前、島牧のリプレース事業および南愛媛第二地点の建設準備を推進しています。洋上風力については、響灘に係る事業化検討の調査を進めています。また、檜山、あわら、西海地点で開発に向けた調査を進め、秋田県沖においてもコンソーシアムを組成しました。海外風力発電事業として、2018年8月に英国トライトン・ノール洋上風力発電事業に参画しており、2021年度営業運転開始に向けて建設工事を推進しました。		
国内地熱発電の新規地点開発として、2019年5月に山葵沢地熱発電所が営業運転を開始し、安定的な運転を継続しました。また、2019年8月には安比地熱発電所の建設工事に着手し建設工事を推進しました。さらに、宮城県大崎市高日向山地域において将来の地熱発電所開発を目指し2019年7月に小口径調査井掘削調査を開始しました。なお、鬼首地熱発電所については2017年4月に既設設備を廃止し、2019年4月に設備更新のリプレース工事に着手し建設工事を推進しました。		○
大崎クールジェン・プロジェクトは2019年12月からCO ₂ 分離・回収型酸素吹IGCC（第2段階）の実証試験に取り組みました。CO ₂ 分離・回収型酸素吹IGFC技術実証試験（第3段階）およびCO ₂ 液化プロセス実証に向けた準備を開始しました。		
竹原火力発電所リプレース計画について、2020年6月に竹原火力発電所新1号機の営業運転を開始しました。		
国内のバイオマス燃料（木質ペレット、下水污泥燃料等）を松浦火力発電所、竹原火力発電所、高砂火力発電所で混焼利用しました。また、竹原火力発電所での木質ペレット大規模混焼に備えて、国内林地未利用木材等、燃料確保に向け取り組みを推進しました。		
インドネシアにおけるセントラルジャワ・プロジェクトの建設工事については、営業運転に向けて試運転を開始しました。		
大間原子力計画は安全強化対策等の検討を進め、新規基準への適合性について審査対応を行いました。あわせて地域の皆様のご理解や信頼を得るための取り組みを実施しました。		
2020年度実績	2020年度実績評価等	目標達成状況
40.9% <参考>LHV：41.9%	既設火力発電所における高効率運転の維持および更新設備における高効率技術の採用に努めた結果、J-POWERグループ火力総合熱効率率は目標を達成しました。	○
点検時：99.7% 撤去時：99.2%	確実に回収・再利用することで機器点検における排出抑制を図った結果、機器点検時99.7%、機器撤去時99.2%となり目標を達成しました。	○
0.20g/kWh	燃料管理および排煙脱硫装置の適正運転などにより硫黄酸化物の排出量を抑制した結果、発電電力量あたりの排出量は目標を達成しました。	○
0.44g/kWh	燃料管理・燃焼管理および排煙脱硝装置の適正運転などにより窒素酸化物の排出量を抑制した結果、発電電力量あたりの排出量は目標を達成しました。	○
99.2%	石炭灰の有効利用促進と発電所の保守・運転等に伴って発生する産業廃棄物の削減に取り組み、目標を達成しました。	○
河川および海域環境の保全への配慮の実践	<ul style="list-style-type: none"> 河川に係る発電設備の運用にあたり、各地点の状況に応じた堆砂処理対策や濁水長期化軽減対策等の河川環境保全の対応を着実に実践しました。 海域に隣接する発電設備の運用にあたり、環境保全協定等に従い海域への排水水の管理を的確に実践しました。 	○
生物多様性への配慮の実践	事業活動における生態系や種の多様性の保全に配慮し、希少動植物およびその生息、生育地の保全に取り組みました。	○
確実なPDCAの実践	確実にPDCAを実践し、環境マネジメントレベルの向上に取り組みました。	○